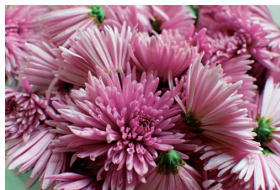


「銀化」中原道夫（東京都・港区）2～3

徳江和雄（東京都・北区）4

「歌舞伎を詠む」⑤ 俳人 小泉芝雲 16

にいがた 食の歳時記 ～ 菊 ～



「花を食べる」なんていうと、ちょっとおしゃれな感じがする。しかし。おしゃれではない私は「花を食べる」。そう、菊！新潟県民は、秋になると菊を食べる（でも、どうやら佐渡や上越地方は食べないみたい）。主に食べられているのは「かきのもと」。赤紫色がきれいだ。旬はだいたい10月頃。黄色と紫の2品種だとびっくり思っていたのだが、何と、29種類もあるらしい。また、花びらは筒状になっているらしい。知らずに食べていたよ、今まで。おひたしにもサラダにも使える菊。もっと全国に広まればと思う。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン・詩歌俳壇ニュース

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミューズ・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

10-11
Vol.106

温古知新 58

「菜根譚」30

夏の暑さも終わり、過ごしやすくなりました。お疲れの時は、「温古知新」でも読んでひと休みでも……。

怨は、徳に因りて彰る。故に人をして我を徳とせしむるは、徳と怨みの両つながら忘るるに若かず。仇は、恩に因りて立つ。故に人をして恩を知しむるは、恩と仇との俱に涙ぼすに若かず。

（怨は、徳と比べることで明らかになる。故に、他人に自分を徳と感じさせることより、徳も怨も両方を忘れる方が良い。仇は、恩恵との対比で成り立つ。故に、他人に恩を感じさせることより、恩も仇も共になくなる方が良い。）

世の中は二極と言えど、それにとらわれないことが安定を生むのでしょう。

老来^{ろうらい}の疾病^{しつびょう}は、都て是^{これ}に招きしものなり。衰後^{さいご}の罪業^{ざいごふ}は、都て是^{これ}に作せしものなり。故に盈^{えい}を持し満^{まん}を履^ふむは、君子^{くんし}尤も競^{きやう}々たり。（年老いてからの病気は、若く元気な時の行いが招くものだ。退いてからの罪状は、隆盛の勢いの時にしたことによる。故に地位も得、実力もある時こそ、上に立つ者は、恐れ慎重になるものだ。）

今だけでなく、先々のことまで考えて行動できるようなりたいものです。

私恩^{しおん}を市^{うる}るは公儀^{こうぎ}を扶^{たす}くるに如かず。新知^{しんち}を結^あぶは旧好^{きうこう}を敦^{あつ}くするに如かず。栄名^{えいめい}を立つるは隠徳^{いんとく}を種^ううるに如かず。奇節^{きせつ}を尚^{たう}ぶは庸行^{ようこう}を謹^{きん}むに如かず。

（個人的な恩を施すのは公正な議論を支援するのに及ばない。新しい友を得るのは旧友との交流を密にするのに及ばない。名声を上げるのは匿名で奉仕するのに及ばない。並外れた行いを重視するのはいつもの行動を慎むのに及ばない。）

日々の活動を大事にしてこそ！

公平なる正論は、手を犯すべからず。一たび犯さば、則ち羞^{はじ}を万世^{ばんせい}に貽^{のこ}す。権門^{けんもん}の私寶^{しほう}は脚^{あし}を着くべからず。一たび着かば、即ち汚れを終身に点ず。

（公平で正しい考えに反対をしてはならない。ひとたび反対すれば、その恥は末代まで残る。権力のある家や自分の利益ばかり計っている人々の所へは足を踏み入れてはならない。一度でも踏み入れれば、その汚点は一生涯残る。）

公正で、権力に偏らない。それが自分だけでなく子孫のためにもなるのかもしれない。

今号では112項まで！私欲なく、中立でいるのは難しいものです…。（古川久美子）

本づくりのススめ

「銀化」主宰 中原道夫様

銀化 〒108-00014 東京都港区芝5-29-22

フェリス三田 908号

TEL&FAX 03-3451-0313

今年5月1日から、新しい「令和」の時代が始まりました。平成元年に第一句集『蕩児』を出版して以来、平成最後の31年には十三句集となる『彷徨 (urutsu)』を上梓した、今年21周年を迎える「銀化」主宰中原道夫氏に、本をまとめること、残すということについてお話をうかがいました。

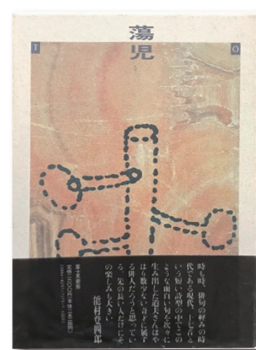


▲「銀化」主宰 中原道夫氏 普段は着物のことが多い 料理の腕前も玄人はだし

第一句集が一番印象に残っている

Q 平成という時代に13冊を上梓、一番印象深い句集は？

初産の第一句集ではないですが。最初に句集を出すことはある程度の英断、こんな若造が出してもいいのかなという当時の考え方もあったから。自分で選をして「序文を書いていただきたい」と師の能村登四郎に持っていく



▲第一句集『蕩児』第13回俳人協会新人賞受賞

と「ああ、いいんじゃないですか」という感じで。「これはちよつと」と言われるかと思ったらそんなこともなかった。出版するときに、某社主から「こんな馬の骨ともわからないような人のは出せません」と言われても、「この人は一押しだから」と押し切った。それが38歳のとき。

Q 自分の作品を世に問いたいという思いがあった？

問いたい気持ちも無きにしもあらずだが、最初に出せば第一清算が終わって、また次を考えられるかと。次に進むための「自切の尾」というか、尾を切ることによって逆噴射して自分が前に進むという考え方。順次2、3年で一冊の句集を出してきて、その都度結構大変だったが、前のことにこだわってられないという気はする。捨ててしまえば今から先の、自分の未来のものしか残らない。そろそろ次の句集の準備をしないと。

Q 自分で、選をしてまとめるわけですね？

そう。「銀化」に毎月出している29句の中でも、句集にする時は結構捨てている。「これはひどいな」と思った



▲「銀化」の「アリバイ工作」欄 ネット帳とともに

Q 「銀化」の「アリバイ工作」欄は、誰に会って何を食べたか等、全て書いてあります

あれはメモしておいて、改めて原稿として手で書き直している。手紙も年間で7千通くらい書いているから、めちゃめちゃ字を書いていると思う。85歳の小國さんという、若い時に五所平之助氏（映画監督）の清書係だった方とは1日に7、8通書くこともあって、私が先方に出したのが3千通くらい。小國さんは「死んだら燃やされるから、日本現代詩歌文学館に全部寄付した」と先日言ってきた。文学館の学芸員豊泉豪さんからは「資料室にファイ

アナログ派、めっちゃめっちゃ字を書いている

ら、ひと月分の俳句が一句も入っていないなんてことも。作るのは机の上だけど、机上に引つ張り出してくるイメージは旅先の風景だったり。メモするより、覚えておくほうが多いかも。本当に些細な、ナイーブな言葉や一歩歩くと忘れそうな言葉は書いている。



▲自身に宛てた封書やアンドラ国の友人に宛てた手紙 アートである

Q 面倒とは思わないのですか？

全く思わない。時間があるなと思ったら5、6通書いちゃう。面倒だと思ったらとくにやっていない。散歩のときも、10〜20通くらい持って郵便局に行くことも。年賀状の二千通も手書きで細かく書く。向こうも書いてくれればこちらも書きたくなるというもの。今はみんな印字でしょ？ 手で書けよな、と言いたくなる。小学生の時から相当数の年賀状を出していた。小学校のものはさすがにないが、60〜70年代からの年賀状はとってある。

Q おそろしい量ですね…

ギネスに申請すれば登録されるかも（笑）。1万通くらいになったら、なんて言っているけど馬鹿げてるよね。手紙で書けばいいのに、ハガキで書いているから切手代だけで何十万円使ったか。だいたい1通で600〜700字くらい書いている。

ルしてあるから、ぜひ見に来てください」と。

当社は本年10月で本づくりを始めて16年。
それを記念して、何十冊もの本を出版されている
中原道夫氏へのスペシャルインタビューです。



▲自身のクロニクル(年代記)のゲラの一部 文章、作品、写真、レイアウトと全てお手製(本職はグラフィックデザイナー)

中原道夫百科事典

Q 収集しているものも含めて、ご自身の集大成をクロニクル(年代記)として、様々な作品を自らのレイアウトでまとめ始めているのですかね？

エンサイクロペディア(百科事典)のような感じだが、あほの極致だよ(笑)。70歳くらいまでに出そうと思っていたが、どんどん増えて終わりが見えない。広告業界にいた時の作品から、写真、食べ物、えにし、旅…等々。食べ物一つとっても写真も絵もあって、絵だけで一冊になるくらい。

Q 中原道夫エンサイクロペディアということですね？

そう、着物とか帯だとか足袋だとかの類もある。骨董だけでも凄いページ

数。骨董は家にあるもの全部写真に撮ったものだから、女房なんて「お父さんこれいくらしたの？」って早くも売り飛ばそうと計画してる(笑)ここに蝶の標本なんかも入れ始めると、またそれですごいページ数になるから、大変なんだよ。

Q ページごとのこだわりというか、やっていて楽しいんでしょうね。

楽しい病でしょうね！もう自己満足の極致(笑)。人はそこまで思わないかもしれないけど、ここにあれをあてはめよう、とか、活字もコピーもかなりこだわって作っている。

**「私ごときが…」ではなく、
「あなただから」意味がある**

Q 何十年も俳句を作ってきて、その作品をどうしていいかわからない、という人がたくさんいます

それは僕らも同じ。俳句に対して言えば、明日自分が進む道がクリアにあるわけではない。だけど、何十年もやっている狭さみたいなものがあって、生きている限りは自己模倣のようなものはあっても、新しいものが生まれるのではないかといううぬぼれがある。何十年もやって来て、ここでもう一冊出すと、また決算書を出して、次に進めるかなというくらいの気持ちでやっている。未だに句集を出し渋っている人は、何千句もあって糞詰まり状態。そして、歳を重ねれば重ねるほど、今さら…ということになっちゃうんだろ



▲写真奥から、「銀化」10周年、15周年、20周年記念号と20周年記念「銀化歳時記」

Q 本当はまとめたいという思いはあっても、「私ごときが…」という気持ちでブレイキをかけた

「私ごときが…」ではなく、「あなただから」という話。例えば、子どもがいて、その子どもが句集を見て「お父さん俳句をやったんだよねえ」と。一番最初の読者は自分かもしれないし、次が女房だったり、子どもだったり、孫だったり。でも、たった一人のためで十分価値はある。残っていれば「お父さん(おじいちゃん)こんなことやってたんだ」と。残されたその本がきっかけで、俳句を始めた子、孫、数多く知っている。でも残っていないければ、なんかやっていた「らしい」で終わっちゃう。

Q 俳人でなくとも、本を出すことに意味はある？

例えば、TBSのアナウンサー小島一慶氏は癌になり、子どもたちの勧めで先日句集を上梓した。そうやって残さないと子どもは見られないから、と家族に残す人もいれば、自分の一つの集大成として自分に残す人もいる。病気がなくても、知り合いに配って「お前、こんなことやってたんだ」と、

知ってもらいたい部分もあるからね。色々な考え方があってから一概には言えないが、長編の小説は書けなくても、俳句なら自分の一冊を易々と生むことが出来る。

Q 易々と！さすがです(笑)。人様が何と言おうと、自分のためにまとめる、自己満足でいいと思うのですがー

プロだって自己満足の部分が10%…いや、他人のために残すというのでも自己満足でしょ。8割方は自己満足。次に進むためにまとめる、という意味と、生涯で一冊しか出さない場合は少し違うかもしれないけど、いずれにしても、本としてまとめることは、自身の決算書としての意味合いがあり有意義だと思う。

★記録魔であり、ハンパじゃないモノ狂いでもあり、頭の中は様々なジャンルのパズルを組み合わせつつ、常にクリエティブなこと、表現することと溢れている中原道夫氏。百科事典の真似はとんでもないが、残すこと、記録すること、見習いたいと思う。

(木戸敦子)



▲最新刊『彷徨(urotsuku)』は背の部分が剥き出しで、かがってある赤い糸も丁合の文字もそのまま見える造本

徳江和雄様

『徳さんふれあい川柳集』

(東京都・北区)

『和柳ふれあい川柳集』に続き、5月に『徳さんふれあい川柳集』を上梓した徳江和雄さんにお話をお聞きしました。

Q 二冊目の句集です

退職後に始めた川柳をパソコンに入力していたら、いっぱいに。紙に印刷したままではもったいないかなと思っていた矢先に、友人が川柳句集を送ってきた。見るとなかなか面白い、そんな話をしていたら甥っ子が御社を見つけて、おかげさまで3年前に『和柳ふれあい川柳集』という立派な本が出来た。あの時は途中で入院しちゃって、木戸さん病院に来てくれたね。川柳を季節、時事、生活、社会問題等に分け、題名も柳号の『和柳ふれあい川柳集』として、ちょっと固めの感じで作ったが、その時はいただく返事が「本をありがとうございました」のようなものが多くて、内容のことはあまり触れていなかった。



▲卒寿を越えやる気に満ちた表情の徳江さん

Q それは残念でしたな

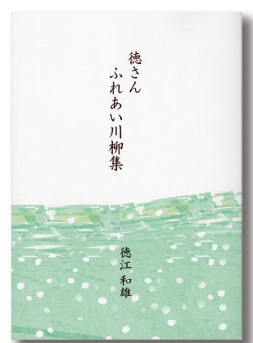
それから、どんな作るから3年経ったらまたたまった。今回は、もっと親しみやすくしたらいいかと思って『徳さんふれあい川柳集』としてカラーも入れて作った。そうしたら、かつての教え子から「先生をしているときは年も上で近寄り難かったが、川柳を読んでもみると怖くなくなった」ってね(笑)。せっかく作ったものだから、やっぱり読んでほしい。

Q 先生でいらしたのです

中学で数学と理科を教えていた。縁日に生徒と一緒にいたり、キャンブへ連れて行ったりね。今でも何かあると、先生先生って言って集まってくれてありがたいよ。生徒に教えられることも多いし、教師と生徒はやっぱり一緒に勉強して育つような関係じゃないと。ひとそれぞれ宿命受けて生かされて、生きていく限りは常に張りを持ち、など、「指針になります」とかは、「筋に我が人生に悔いはなし」の句には「先生、私も頑張ります」なんてね。川柳でも人を励ますことはできるのかなあと思った。でもみんな他人事だと思っ、「第三集も出して」なんて手紙が多いんだよね(笑)。

Q どんな日常を?

妻を亡くして8年、朝起きて仏壇にお水やお茶をあげて、自分の食事の用意をして食べるともう10時過ぎ、片付けをして一休みするともう11時。だからお昼は、小さいお菓子を二つくらい食べて牛乳飲んで。体力がないと動けないから夕飯は食べるようにして。録画しておいた映画や鬼平犯科帳等の時



▲2冊目の川柳句集『徳さんふれあい川柳集』

代劇を、お茶飲みながら観るのが至福の時。もうねえ、90歳を過ぎると何するにも大ごとでね。それでも自治会で「ふれあい川柳」として、教えているというより仲間と一緒に川柳をやっているの、みんなの作品をパソコンに打ち込んで印刷して、そんなことばっかりやっているよ。この年で少しでも皆さんの役に立てるのはありがたいなあと思って。じゃないと友だちみたいに電話をよこすたびに「早く迎えが来ないかなあ」なんて。「そんなこと言ってるやつは長生きするんだよ」って話しているけど(笑)。

Q もともと川柳を?

小学校の先生が川柳を好きで、よく話を聞いていたけど、小学校の頃から戦時色が入って軍国少年に育てられた。中学に入ると動員が始まり、3年になったら毎日亀有の工場に通うように。特攻の飛行機のプロペラを作る材木を削ったり貼り付けたり、そんな仕事をやらされた。ようやく、退職してから毎日の出来事を日記のように五・七・五で詠み始めた。自分のことだけだと範囲が狭くなるから、世界情勢なんかも取り入れて。いつ迎えがくるかわからないけど、死ぬまで興味と関心を持って頑張ろうと思っている。生きているからには社会のお世話になっ

ているわけだし、恩返ししたい気持ちはある。まあこんなこと言ってるけど格好よく言ってるだけ、嫌な時もあるよね(笑)。

Q これからは?

脳トレは川柳づくりとパソコンいじり。そして、みなさんと一緒に楽しむこと。長く生きてきたけど、ほんとあつという間だね。地球の自転が早くなったんじゃないかと思ってるけど(笑)。でもね地球ができて46億年だった?それを考えると、我々の100年なんてほんの一瞬。だから生きてるうちが華だよ。お宅の会社もみんな頑張っているけど、それが一番いい時、今考えとね。

卒寿過ぎ昭和平成夢のよう

★お電話でもお会いしても明るく通る声でお話くださる徳江さん。一軒家に一人でお住まいで、何うとすぐにお茶を入れてくださる。からっとしていて生粋の江戸っ子で、親しみやすく、ともに学び合うという姿勢が一貫している。人が慕うのがよくわかる。(木戸敦子)



▲仲間と一緒に川柳を楽しむ日々

『徳さんふれあい川柳集』に対する手紙の数々



※誌面の都合上、300作品を超える投稿があった場合、掲載はお一人さま1作品、
先着300名様までとさせていただきます。今回の投稿作品数は、235でした。
※しめきり 2019年11月15日(金)まで ※作品は原稿どおりに掲載しております。



投稿作品

短歌

- 1 朝まだきゆつたりゆたり美しく浩然の気や太極拳は 阿部至(埼玉県)
- 2 妹の預かりし犬家族皆取り合い抱っこ甘え上手 大橋絵代(千葉県)
- 3 グラスに浮く氷のひとつひそやかに音立てひびの割れて動きぬ 青木日出男(群馬県)
- 4 様々な人間模様見せながら診察を待つ廊は混み合う 中沢敬子(千葉県)
- 5 初前座歌を友とすカラオケの七路を行くわが肝試し 早坂絃司(北海道)
- 6 さそはれて筋トレ体操励みをり追ひつけなければ我れはわれ 佐伯セツ子(香川県)
- 7 「核兵器禁止条約」に不賛成被爆国日本の政治を憂う 黒澤正行(福島県)
- 8 我が家に聞くかっこうは響かねど山にて聞けばこだまするなり 本田智恵子(東京都)

- 9 ちよい飲みでぐずりあし昂志見るみかね大婆そつと金魚絵あふぐ 高須 孝(愛知県)
- 10 成りものは天候不順に熟るるなく遅れて黄にへたり枯れたり 石尾曠師朗(東京都)
- 11 安否問う便りを今日も書き送る世に在る肉身一人の兄へ 寒川靖子(香川県)
- 12 筆を取り「令和」の文字をしたためぬ我が終の日の元号ならむ 桑原謙一(群馬県)
- 13 父母の年令に近づきて思わるる身体のいたみ心のいたみ 渡部美代子(山形県)
- 14 肺炎と闘う夫は吸引する機械を払う力の限り 濱崎祥子(鹿児島県)
- 15 離れ住む曾祖父父母の膝は待ちわびて少しはにかむひ孫抱き寄せ 守安幹男(岡山県)
- 16 氏の講義夏を調べて解きあかす夏も涼やか方代ヒストリー 土屋喜雄(山梨県)
- 17 米国で暮らす孫子に写真送る夫の手入れの庭の紅葉 田村よし(茨城県)
- 18 武器を売る大統領についてゆく我がリーダーに怒りのこぶし 合田浩子(茨城県)
- 19 運転は今期限りで決意してもう少しだけ慎重に乘る 田中豊恵(新潟県)
- 20 父母夫へ手合す墓前冥福を祈りて願う商売繁盛 峯岸信子(東京都)

川柳

- 21 のら猫はわが家のようにゆうゆうと目の前より昼寝するなり 森 由恵(奈良県)
- 22 三姉妹と相模に母の墓参り供えしばらの梅雨に揺れおり 関原幸子(東京都)
- 23 廃屋の陰にひとむら十葉の白き花ゆらし夕しぐれゆく 内藤明子(東京都)
- 24 境内の大楠の木は若葉色新芽と小枝むく鳥ついでむ 大鳥居牧子(東京都)
- 25 今日よりは進駐軍にあらずして駐留軍と師より教はる 濱田イサオ(福岡県)
- 26 いつまでも戦後であれと願う民非核化にはにべも無い総理 坂元正憲(東京都)
- 27 虐待を受け亡くなりし五歳児の書き遣したる言葉胸刺す 早坂保文(宮城県)
- 28 人恋し誰かに抱きしめらし夢心の乾き思い知る夜 岩崎令子(大阪府)
- 29 年を取るって初めてで難しい 丸山芳夫(東京都)
- 30 思い出は御巢鷹ケルン石リュック 石原 岳(群馬県)
- 31 他人事と思うなペダル踏み違え 細川光子(栃木県)
- 32 旬野菜生命力をチャージする 小山恵美子(大阪府)
- 33 深夜便何時の間にやら子守唄 西條公雄(埼玉県)

- 34 よく食べてよく働いてよく眠る 守屋高雄(岩手県)
- 35 不老ならばよいが不死はご免なり 原 崇雄(埼玉県)
- 36 夫婦らしい会話聞いている庭の花 長谷川庄二郎(千葉県)
- 37 二千万円や訳有り野菜買うことも 岩村 昇(神奈川県)
- 38 選挙のため何でもありのこの世界 橋本世紀男(東京都)
- 39 お日様のリズムに合わせ元気で 木村洋一(新潟県)
- 40 スリ注意スリも見ている掲示板 二瓶邦枝(埼玉県)
- 41 信頼の歩幅にあった夫婦愛 鈴木義雄(福島県)
- 42 稲穂たれスズメ群がる秋景色 久保壽雄(北海道)
- 43 戦争はダメやダメダメ理屈ぬき 近藤富夫(東京都)
- 44 今日乗る走る凶器という愛車 目黒豊光(福島県)
- 45 もうやめよあんなするからうちもする 奥那於子(大阪府)
- 46 無い袖に本音が言えぬ夫です 関本 守(新潟県)
- 47 真実のみきわめさぐりユーチューブ 宇都木安子(東京都)
- 48 上・中・下のどれでもいいよ領収書 和崎治人(山口県)
- 49 銀漢を裸足で渡る涼しがる 久本に地(岡山県)





俳句

- 50 煩惱のなほ心奥に木の実落つ
すずき笑子(東京都)
- 51 青鷺の黙考水の黄昏れて
環 順子(東京都)
- 52 罪なきに踏まれ蹴られて虚栗
高崎登喜子(東京都)
- 53 寿し孫五人目秋うらら
天野輝子(東京都)
- 54 別れぎわ月さやかなりお嬢さん
湯浅暉子(石川県)
- 55 冥土へはまだ遠き道鰯雲
檜山柚子香(東京都)
- 56 びわ熟れて群がる鳥が呼び交す
田中恵美子(山形県)
- 57 白寿まで生きる夢あり星の夜
齋藤光雄(新潟県)
- 58 どうしても抜けぬ指輪や秋暑し
川口 襄(埼玉県)
- 59 風雅人気取り硯を洗ひたり
吉里ひとみ(東京都)
- 60 肩車して公園の小春かな
村田吉雄(東京都)
- 61 重裝備盆僧バイク袈裟懸けで
居原田暹(大阪府)
- 62 大葉摘む虫食はぬうち食はぬうち
大阿久雅子(埼玉県)
- 63 二の腕の日焼きたらや束ね髪
三津木俊幸(千葉県)
- 64 町内会じじばば主役の盆踊
長峰正晴(千葉県)
- 65 梅を干す夜はことさら匂ひけり
平山千江(岩手県)
- 66 太書の兜太の一句秋団扇
小島岳青(新潟県)
- 67 御来光向うに富士のまじろがず
上村元義(神奈川県)
- 68 秋立つや八十路の余命いくばくか
井原毬子(東京都)
- 69 十号の台風一過ゴジラ道
近藤ともひろ(千葉県)
- 70 初秋を撫でてみたきや五指の先
多田文代(東京都)
- 71 空蟬やコーラスの友椅子俤
古谷 力(東京都)
- 72 玉音に父の涙や終戦日
関山恵一(神奈川県)
- 73 林道に枯梗残し草を刈る
平林義康(兵庫県)
- 74 吾子産まる暁の風吹く秋彼岸
古閑智子(神奈川県)
- 75 噛み碎き農夫頷く今年米
吉村充治(埼玉県)
- 76 カラオケもジムも欠かさぬ生身魂
井上静夫(栃木県)
- 77 苗伸びて風吹いてる青田かな
竹本美美子(新潟県)
- 78 待合室地に蟻三つつ蟬曇
安部 哲(新潟県)
- 79 雨吸ってゴム毯となる七変化
溝畑美代子(埼玉県)
- 80 畳みたる日傘の内の火照りかな
井上氣海(広島県)
- 81 棚経や突然雄鶏鳴きだして
唐木孝年(神奈川県)
- 82 秋刀魚焼く匂ひ動かぬ裏小路
小林七重(新潟県)
- 83 秋簾母の遺愛の鯨尺
小澤円梨(静岡県)
- 84 端居して遺影の妻の視線浴び
山崎吉晴(群馬県)
- 85 ジェラシーを我にぶつける炬燵猫
白戸麻奈(東京都)
- 86 赤とんぼ大震災のほとりなす
福岡 悟(東京都)
- 87 斜陽さす産土の畦曼珠沙華
堀木和子(大阪府)
- 88 孫帰るシツカロールの忘れ物
松尾らん(東京都)
- 89 瑕瑾なき秋爽の空鳶の笛
大谷 茂(埼玉県)
- 90 せせらぎは万葉恋歌秋の彩
内河邦久(東京都)
- 91 雑踏にまきこまれたの祭り顔
堀口 伸(埼玉県)
- 92 空き瓶のハンゲル文字や野分あと
永田歌子(埼玉県)
- 93 子に理由のありて浮き沈み
湯浅芳郎(岡山県)
- 94 鯊釣りの船が戻りぬあかね空
鈴木清子(埼玉県)
- 95 スマホ手に心通はせ星月夜
有坂馨園(福島県)
- 96 牛蛙沼をふるはす独り言
片山茂子(埼玉県)
- 97 茄子の紺糠床に埋め一日終ふ
高松玲子(埼玉県)
- 98 定年ははるか彼方に昼寝覚
佐野和彦(静岡県)
- 99 面影のとほくなりたる盂蘭盆会
青木ケン子(埼玉県)
- 100 滴りの一滴すくう夏の山
大塚徳子(埼玉県)
- 101 釣糸を垂れる親子や晩夏光
中田文子(大阪府)
- 102 さまざまな秋が行き交ふ敬老日
杉村美保子(岩手県)
- 103 ふんばつてゐても倒れる茄子の馬
堅田秀子(東京都)
- 104 鰯焼く路地に流れるファドの唄
島村幸重(兵庫県)
- 105 中山道人家まばらに花野かな
北野耕兵(千葉県)
- 106 月光の及ぶ限りの刈田かな
田中 昶(鳥取県)
- 107 ひたむきに生きて来た道喜寿の秋
杉原明子(静岡県)
- 108 結局はみぞれが一番かき水
渥美 保(滋賀県)
- 109 パンかつぐ兵隊蟻の数珠繋ぎ
中野勝子(鹿児島県)
- 110 迎え火や亡夫へ初見の曾孫が居り
日名子春実(群馬県)
- 111 秋の風立ちて漣クリスタル
九法活恵(埼玉県)
- 112 かなかなや肌に残る硫黄の香
中島光江(埼玉県)
- 113 あ、桔梗朝な夕なにお召し替え
阿部澄江(宮城県)
- 114 句を杖に旅立つ朝や秋しぐれ
阿部徳夫(宮城県)
- 115 蓼の花爺と話すと大声に
岩田信(神奈川県)





- 116 飲食をもうせぬ妻や星月夜
津田卿雲(岡山県)
- 117 きき酒が解る友なり祭りかな
五十嵐睦博(新潟県)
- 118 ひまわりの丘のローレンとすれちがふ
梶 鴻風(北海道)
- 119 赤手がに月夜の海へまっしぐら
青木涼子(埼玉県)
- 120 梅干しの色あざやかに笑美深し
小田ゆかり(新潟県)
- 121 哀調の二絃の音色遠花火
望月哲土(東京都)
- 122 問へたる言葉に惑ふ夜半の秋
川嶋法子(東京都)
- 123 九夏のまほろば大和三山の黙
山田富朗(埼玉県)
- 124 波の上を飛ぶサーファーや雲の峰
金子範子(高知県)
- 125 一筋が三筋の流れ雨台風
堀田寿美子(北海道)
- 126 曲水を流れる水はすでに秋
岩崎弘舟(岡山県)
- 127 爽やかや咸臨丸の勝海舟
本庄準也(埼玉県)
- 128 はじめてのピンクのつめのうれしさよ
浅海和代(神奈川県)
- 129 地の果ての魔ものゐさうなむらすき
橋本良子(埼玉県)

- 130 初採りの胡瓜花殻付いてをり
津布久信雄(東京都)
- 131 幼子の一人手遊び汗の髪
星 一子(神奈川県)
- 132 ひとつ覚えひとつ忘れて猫じやらし
早乙女文子(埼玉県)
- 133 今年また自筆の柿を床に下げ
磯部 力(新潟県)
- 134 流星や亡き長兄の誕生日
寺内 信(埼玉県)
- 135 秋風のこいしい夜なが妻と寝る
原田治男(東京都)
- 136 秋扇父にも遺る艶話
高野ほづ子(千葉県)
- 137 フェルメール春の賑ふ美術館
間森 坦(兵庫県)
- 138 響きあふ同志の書簡花重
浦橋渥雪(兵庫県)
- 139 ぎりぎりに限りをつくす蟬の声
木村 舳(山形県)
- 140 すきとほる蛸三重に過疎暮るる
貝瀬光洋(神奈川県)
- 141 抜菜とてみんな健康優良児
今井勝子(新潟県)
- 142 アール・デコの至宝の数多竜淵に
桜井葉子(千葉県)
- 143 舟虫や四散する夢甲子園
中川義彦(新潟県)
- 144 指差して月の兎と孫娘
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 145 老いてなほ羞恥心あり濃紫陽花
大津美代子(大阪府)
- 146 頂のまだ暮れのころ九輪草
福山三智子(東京都)
- 147 新米と言ふあたらしいのち食ふ
若林卓宣(三重県)

- 148 図体に縋り付く蚊の速さかな
藤井春三(埼玉県)
- 149 生家には今も卓袱台衣被
一瀬正子(埼玉県)
- 150 長寿席すぐに満席運動会
中村康浩(福岡県)
- 151 雪融けてミヤマアケボノ咲き盛る
齋藤博洋(秋田県)
- 152 ざれ言も笑顔の介護春の暮
本間 進(新潟県)
- 153 孫つれて見た日遥かな大花火
本間ミネ(新潟県)
- 154 台風一過空を切裂くジェット雲
神 一男(静岡県)
- 155 新豆腐厨にありし井戸ポンプ
伊藤 修(埼玉県)
- 156 廃校の黒板にゐて金亀子
佐藤 信(神奈川県)
- 157 アンカーの真一文字や体育祭
齊藤安弘(神奈川県)
- 158 二重虹ともに見上げし彦根城
中山日出子(大阪府)
- 159 骨折後やと筆もつありがたさ
長谷部喜代子(大阪府)
- 160 モノクロに蜜色の粒秋の雨
若月理依子(新潟県)
- 161 虫時雨仁徳御陵その中に
沖 惇子(大阪府)
- 162 半生を路地に暮して虎耳草
服部八重子(東京都)
- 163 秋風の頬を撫で行く散歩道
道給一恵(埼玉県)
- 164 白桃の少女のほっぺ鄙の駅
村山徳英(埼玉県)
- 165 新涼や手持無沙汰の休刊日
清水君江(埼玉県)

- 166 顔と貌吾子と蟪蛄仁王立ち
安田芳江(茨城県)
- 167 職退いてホーム暮らし秋彼岸
宇田川正雄(埼玉県)
- 168 いじめなや子供は宝赤とんぼ
中村万年青(京都府)
- 169 片減りの父の硯を洗ひをり
椋本望生(大阪府)
- 170 遠雷やたちまち空は模様替え
柴田恵美子(北海道)
- 171 「はやぶさ」が竜宮の土探る猛残暑
光成高志(千葉県)

フォトイック

こちらの写真を見て詠んでいただきました。



(写真提供・伊丹三樹彦さん)

- 172 秋の旅どちらが姉か妹か
高崎登喜子(東京都)
- 173 秋暑し和服姿の似合ふ古都
天野輝子(東京都)
- 174 故郷の盆踊り会姉妹
檜山柚子香(東京都)
- 175 伊勢崎の銘仙似合う越後美人
石原 岳(群馬県)
- 176 クラス会向ふ春の日ママ二人
齋藤光雄(新潟県)



- 177 三様の安産の尻宮参り
坪田勝秀(鹿児島県)
- 178 同窓会女子高生のご案内
青木日出男(群馬県)
- 179 緑見る着物姿の美しさ
水落重武(新潟県)
- 180 和服って粋タンスの肥やしなっている
小山恵美子(大阪府)
- 181 福笹の若女将ほのほのと笑む
居原田暹(大阪府)
- 182 後姿の清しき人や白緋
大阿久雅子(埼玉県)
- 183 バックシャンも二人並ぶと比較され
長峰正晴(千葉県)
- 184 夏帯を小粋に稽古帰りかな
平山千江(岩手県)
- 185 着飾って合コンに行く三人娘
井原毬子(東京都)
- 186 三姉妹おんな冥利や夏衣
近藤ともひろ(千葉県)
- 187 後ろから遠慮して撮る美女二人
長谷川庄二郎(千葉県)
- 188 だべりついに足止まりたり松の花
安部 哲(新潟県)
- 189 祝婚の日差しの中や囀れり
小澤円梨(静岡県)
- 190 若かりし後べっぴん私でしよう
佐伯セツ子(香川県)
- 191 招かれた花の野点に友誘ふ
山崎吉晴(群馬県)
- 192 今まさにファッションショウか菊
花展
福岡 悟(東京都)
- 193 バックシャン言葉なつかし秋祭り
橋本世紀男(東京都)
- 194 秋高し茶席帰りの三姉妹
堀木和子(大阪府)
- 195 初浴衣母の十七子は知らず
鈴木清子(埼玉県)
- 196 久々の茶会に急ぐ秋裕
片山茂子(埼玉県)
- 197 和装には草履が似合ふ新松子
佐野和彦(静岡県)
- 198 遠き日の友と参拝単衣帯
堅田秀子(東京都)
- 199 秋日和親娘どこへ出掛うらやましい
渡部美代子(山形県)
- 200 涼しげにお太鼓結びや夏が逝く
濱崎祥子(鹿児島県)
- 201 おたいこの後姿がものをいう
奥那於子(大阪府)
- 202 影ふたつの和服姿や風薫る
中野勝子(鹿児島県)
- 203 万緑の寺領へ集う茶会かな
日名子春実(群馬県)
- 204 玉砂利を踏んで湧き立つ一重帯
九法活恵(埼玉県)
- 205 粋ですよ大和撫子令和見参
阿部澄江(宮城県)
- 206 見返り美人どんなお顔か見てみたい
阿部徳夫(宮城県)
- 207 レンタルで残す思い出京の街
守安幹男(岡山県)
- 208 叔母さんと出掛ける祭女学生
五十嵐睦博(新潟県)
- 209 腰高に結ぶ夏帯の艶姿
梶 鴻風(北海道)
- 210 久しぶりなの母さんとお茶会に
川嶋法子(東京都)
- 211 後楽園着物姿で散策を
岩崎弘舟(岡山県)
- 212 洗い髪結び夕べの音楽会
本庄準也(埼玉県)
- 213 お茶会にアラはずかしや娘十八
田村よし(茨城県)
- 214 同期会着物姿のあでやかさ
合田浩子(茨城県)
- 215 お太鼓の結び加減や秋に入る
橋本良子(埼玉県)
- 216 御太鼓の親子の背へ秋の風
星 一子(神奈川県)
- 217 久々に御太鼓結びそわそわと
田中豊恵(新潟県)
- 218 日傘では隠したくなく艶やかさ
寺内 信(埼玉県)
- 219 涼やかな着物姿やいざ茶会
関原幸子(東京都)
- 220 すれ違う皆を楽しめます粋な和服かな
大鳥居牧子(東京都)
- 221 卒業期日本文化のみせどころ
宇都木安子(東京都)
- 222 女三人後姿もみな美人
高橋卓二(新潟県)
- 223 吾が晴着セピア色なり七五三
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 224 体型を隠してくれる着物姿
和崎治人(山口県)
- 225 日本の衣になじむ杜寺の道
大木和男(埼玉県)
- 226 母の待つ三人上戸青嵐
藤井春三(埼玉県)
- 227 着物きて淑女となりし社かな
本間 進(新潟県)

(写真提供…伊丹三樹彦さん)



俳句・川柳募集!!

上の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。お待ちしております!



- 228 参観日和和服を競ふ秋日和
神 一男(静岡県)
- 229 仲良しの稽古に通う残暑かな
齊藤安弘(神奈川県)
- 230 色変えぬ松ピアスしてネイルして
椋本望生(大阪府)
- 231 お茶会のはずむ会話に古都涼し
岩崎令子(大阪府)
- 232 秋日和太鼓結びが並びゆく
光成高志(千葉県)
- 233 三樹彦さん彼女が二人出来たわね
萬濃その子(神奈川県)
- 234 なよ腰の和服健在菊日和
有田裕子(北海道)
- 235 向日葵や和服がにやう笑顔よし
五味田幸夫(東京都)



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

◎川柳部門

6 今日も無事明日の予定を決めて寝る

守屋高雄(岩手県)

・前向きで良いですね 細川光子(栃木県)・楽しみに畑を待っています。

今日はこれまで、明日の予定たててまいたりうえたりして食卓に。ごちそうになります 渡部美代子(山形県)・私もこの頃そうしております 松尾正一(岩手県)

8 暮しにも一球欲しい遊び球

石原 岳(群馬県)

・遊び球ばかりの人も居ますが：丸山芳夫(東京都)・夫婦円満の魔球かな 原崇雄(埼玉県)・暮らしの中にピッチャーが投げる遊び球みたいな余裕が欲しい。同感です。ストライクばかりの生活では疲れます 長谷川庄二郎(千葉県)

◎俳句部門

23 本棚はタイムカプセル土用干

川口 襄(埼玉県)

・青春時代に読んだ本を見付け、思わず手が止まってしまうことも 大阿久雅子(埼玉県)・昔読んだ本に述懐する作者。余意余情を感じます 鈴木清子(埼玉県)・本棚にタイムカプセルを詠まれたのが意外であり心に残りました 片山茂子(埼玉県)・本棚をタイムカプセルとよくいって下さいました 中野勝子(鹿児島県)・確かに曝書している時間の経つのを忘れます!! 九法活恵(埼玉県)・棄てられない昔読んだ本が本棚にはつまっています 岩田信(神奈川県)・土用干でタイムカプセル

と感じたところがよかった 望月哲土(東京都)・青年時からの本棚を見るとその時々を思い出します 本庄準也(埼玉県)・「古い本処分したら」と言ったら連れ合いはこの句と同じ主旨のことをブツブツ呟いていました。それを句に仕上げるなんてすごい 今井勝子(新潟県)

24 廃校の軒が賑やかつばめの巢

和崎治人(山口県)

・本来なら子らの声がほしかったのに：我が母校もこの通りです 坪田勝秀(鹿児島県)・つばめの人懐こいにぎやかさが無人の学校を鮮明にしている 北野耕兵(千葉県)・私の母校相原高校もリニアの駅のために移転。跡は廃校となりました 佐藤信(神奈川県)

140 歩かねば老が追いつく校道

倉沢ひとみ(静岡県)

・〈老が追いつく〉の表現が面白い。小生もリハビリに通っています、何と言っても、歩くことが一番良いようです 吉村充治(埼玉県)・これから行く道 溝畑美代子(埼玉県)・毎日ノルマとしている散歩で実感。もう老いに追いつかれています 奥那於子(大阪府)・老が追いつくは言いえて妙。元気を貰う俳句です 浦橋渴雪(兵庫県)・老いに追いつかれない様に日々注意して暮らしております 大窪美代子(大阪府)

◎短歌部門

169 九条は世界にほこれる宝物変えちゃ

いけねー足しちやいけねー

黒澤正行(福島県)

・少々荒っぽい口語体主張が明確にしています 小林七重(新潟県)・まさにその通り賛成です 青木凉子(埼玉県)・日本憲法の精神よく表現されていますね 合田浩子(茨城県)

174 砂に書くあなたの名前を消してゆく

波に問いたい「お元氣ですか」

寒川靖子(香川県)

・若々しいロマンチックな一首 阿部至瑋(埼玉県)・とてもロマンのある短歌 中沢敬子(千葉県)・素直に胸にじんと伝わってきます 橋本世紀男(東京都)・昔を想い出させる追憶もよし 石尾曠師朗(東京都)・「砂に書いたラブレター」というロマンチックな曲が大ヒットした青春時代を懐かしく思い出します 坂元正憲(東京都)

◎フォトイック

今回大賞はありませんでした。

◎他にも

3 消印のようにハッキリしない人

丸山芳夫(東京都)

5 自分が好き明日の自分もつと好き 小山恵美子(大阪府)

7 人生のアクセルをまた踏み直す 長谷川庄二郎(千葉県)

21 青空の広がりが好き夏に入る

竹本美美子(新潟県)

43 省みることの数多や河鹿鳴く

大谷 茂(埼玉県)

79 青梅の落ちてバウンドする余力

日名子春実(群馬県)

85 無駄といふ事を好まず生身魂

小林七重(新潟県)

95 独り居のくらし素となり冷奴

田中 昶(鳥取県)

105 少年の画布はみ出せり夏海

寺内 佑(埼玉県)

116 冷奴無聊の一日暮れにけり

村山徳英(埼玉県)

118 帰省子の幼にかへる笑顔かな

高野ほづ子(千葉県)

137 嬬やかな後姿の白日傘

橋本良子(埼玉県)

138 遠足のおむすびひとつ母の味

本間 進(新潟県)

167 妃殿下となりそして今皇后二度の

パレードも顔華やか

171 残り物食材生かし節約を今日の一品酢豚仕上る

佐伯セツ子(香川県)

176 戦時下の闇に螢は乱舞せり再び見

たし淡き光を

186 若き頃田畑の暮らしに馴れなくて

今は野菜を育てる楽しみ

187 返上が頭をよぎる年令となり罪人

のごとハンドル握る

216 小春日や寛ぐ家族カンガル

山崎吉晴(群馬県)

※ 今後ともふるってご投稿をお願いいたします！

Q 前回のアンケート
東京オリンピックまで
あと1年！楽しみにして
いることは何ですか？

●開会式

・聖火が燃える瞬間！！

・開会式です

関本 守(新潟県)
小山恵美子(大阪府)
上村元義(神奈川県)
古谷 力(東京都)

ほか多数

・どんな開会式がみられるかテレビが
楽しみ

・開会式の各国の入場シーンや、聖火
の瞬間

・開会式、各国の民族衣装見ること

・渡部美代子(山形県)
青木涼子(埼玉県)
寒川靖子(香川県) ほか

・日本式な美しさのある開会式

・青木日出男(群馬県)
入場行進に感激します

・井上氣海(広島県)
開会式、祈る晴天

・片山茂子(埼玉県) ほか
開会式のパフォーマンス

・長峰正晴(千葉県)
和崎治人(山口県) ほか

・生きているうちに二度も見れると思
いませんでした 岩崎令子(大阪府)

●閉会式

・閉会式

・無事に終わる事を祈ります
久本にい地(岡山県)
鈴木清子(埼玉県)
望月哲土(東京都)

●マラソン

・マラソン

高崎登喜子(東京都)
木村洋一(新潟県)
青木ケン子(埼玉県)

ほか多数

・オリンピックの花形

・マラソンは応援に行ってみたいです
けど……

・昭和三十九年大会との対比

・前回の東京オリンピックを思い出し
ています

・張山てる子(東京都)
他のチケットは入手できないので

・橋本世紀男(東京都)
期待しています

・中川義彦(新潟県)
楽しみでもあり心配でもあります

・二瓶邦枝(埼玉県)
陸上

・中村久仁子(京都府)
濱田イサオ(福岡県)

・今井勝子(新潟県)
百来走 一瞬にかける緊張と迫力に
ひかれます

・齋藤光雄(新潟県)
陸上のトラック競技

・(男子)100m9秒の争いなど
齊藤安弘(神奈川県)

・男子四百メートルリレーと各選手の
百メートル 寺内 信(埼玉県)
男子短距離 島村幸重(兵庫県)

●水泳

・水泳

天野輝子(東京都)
湯浅暉子(石川県)
檜山柚子香(東京都)

ほか多数

・暑いので水泳競技

・溝畑美代子(埼玉県)
生きていけば水泳かな

・原 崇雄(埼玉県)
体操

・環 順子(東京都) ほか
男子体操

・大阿久雅子(埼玉県)
体操男子若手に期待

・津布久信雄(東京都)
新体操

・新体操の特にリボンを使う技
細川光子(栃木県)

・男女ともに新体操
佐伯セツ子(香川県)

・卓球

・井原毬子(東京都)
小田ゆかり(新潟県)

・高校時代から卓球の国体に良く出ま
したのでやはり卓球です

・平田美年子(岐阜県)
自分も楽しんでいる卓球日本選手の
活躍

・宇都木安子(東京都)
卓球の優勝決定戦を観たい
内藤明子(東京都)

●バレーボール

・バレーボール

・川嶋法子(東京都)
現地に行ける人は何%か
星 一子(神奈川県)

●野球

・野球

原田治男(東京都)
WBCで二度とついている金メダル。オ
リンピックでもとって世界一になっ
てほしい

・黒澤正行(福島県)
野球(ソフトボール)は国技であり
是非金メダルを！

・居原田暹(大阪府)
野球、ソフトボール。福島県開催な
ので

・目黒豊光(福島県)
柔道

・三津木俊幸(千葉県)
阿部徳夫(宮城県)
田中 昶(鳥取県)

・高橋卓二(新潟県) ほか
自分も一応黒帯なので、柔道は集中
して見たい

・井上静夫(栃木県)
チケットはハズレでした

・高松玲子(埼玉県)
日本人選手の活躍を楽しみにしてい
ます

・久保壽雄(北海道)
パラリンピック

・特にパラリンピックに興味がありま
す 長谷川庄二郎(千葉県) ほか

・全てのパラリンピック
近藤ともひろ(千葉県)

・ハンデを持っていても戦う意気込み
を観戦したい 多田文代(東京都)

・パラリンピックのいろいろな競技を
知って見るのを楽しみにしていま
す

・若月理依子(新潟県)
普段余り見る機会のないパラリン
ピックの各種目 早坂保文(宮城県)

a Questionnaire

・パラリンピックの選手達がメディアに取り上げられることが多く、迫力あるバスケット観てみたい

有島和子(東京都)

・国枝慎吾選手の車イステニスが楽しみ

阿部澄江(宮城県)

・車いすバスケットボール

●メダル数

・金メダルの数 椋本望生(大阪府)

・金をいくつとれるか?

・勝利にこだわり金・銀・銅を大量にとつて日本人日本国の誇りを取戻したい

岩村 昇(神奈川県)

・日本人選手のメダルの数

平林義康(兵庫県)

●聖火ランナー

・国立競技場の聖火台への点火の瞬間。最終ランナーは誰か

山田富朗(埼玉県)

・聖火ランナーに応募したので期待しています

関山恵一(神奈川県)

●テニス

・錦織さん・大坂なおみさんのプレー

濱崎祥子(鹿児島県)



●レスリング

・レスリング 村山徳英(埼玉県)

●サーフィン

・千葉県一の宮市のサーフィン

北野耕兵(千葉県)

●サッカー

・埼玉県で行うので直接応援に行きたい

本庄準也(埼玉県)

●シンクロ

大橋絵代(千葉県)

●バドミントン

・バドミントン 中野勝子(鹿児島県)

●ソフトボール

・ソフトボールの試合が見たい

金子範子(高知県)

●バスケット

・八村塁は日本チームをどこまで引っばっていきけるか

桑原謙一(群馬県)

●その他

・新たに加わった競技

大谷 茂(埼玉県)

・各種目の選手の活躍

本田智恵子(東京都)

・選手のそれぞれのドラマに感動するでしょう

奥那於子(大阪府)

・感動を百句かなわぬまでも一日十句!!

九法活恵(埼玉県)

・世界平和にどれだけ貢献できるか

阿部 至(埼玉県)

・全般を通して日本、東京の国際評価の向上ができるかどうか

伊藤 修(埼玉県)

・大会後の静寂さ

坪田勝秀(鹿児島県)

・千駄ヶ谷とか近いので風景

吉里ひとみ(東京都)

・日本選手の活躍

西條公雄(埼玉県)

・暑い夏を涼しい部屋でテレビ観戦

安田芳江(茨城県)

・多くの外国の人たちと会えること

岩田信(神奈川県)

・「お・も・て・な・し」の実証、外国の方との出逢い

中村康浩(福岡県)

・津々浦々に応援したい頑張れ日本!

五十嵐睦博(新潟県)

・アスリートが楽しくなるように願います

合田浩子(茨城県)

・競技場の沿道で日の丸の旗を振り応援

大島居牧子(東京都)

・「楽しみにしている」ことより心配事が。炎熱のこと。誰が決めたのか八月と

小島岳青(新潟県)

・選手の方の健康が心配

田村よし(茨城県)

・開催時今年の様な猛暑や台風にならない様願うだけ

関原幸子(東京都)

・猛暑の心配ばかりで、年をとると楽しみより心配が先です

一瀬正子(埼玉県)

・東日本の除染処理や各地の災害復興の遅れを思うと楽しみにする心の余裕がありません

小林七重(新潟県)

・元気で見られる事を目標にしています

大窪美代子(大阪府)

・心身ともに元気にテレビ観戦できること

堀木和子(大阪府)

・早いもので人生で二度目に、前回と違った感動を!

本間 進(新潟県)

・卒寿こえてもう一度オリンピック楽し

本間ミネ(新潟県)

・自分が元気でいられるかな

橋本良子(埼玉県)

・まさかオリンピック迄命ながらえとは

浦橋渥雪(兵庫県)

・来年は90代となります。なんとか一年生きようと思っております

服部八重子(東京都)

・女子ゴルフ

中沢敬子(千葉県)

「東京オリンピックで楽しみにしていることは？」の質問に対し、「何といっても柔道」とお書きくださった元英語教師の太田野史様(ペンネーム)。柔道の妙味についてお書きいただきました。一本!!

柔道あれこれ

太田野史(新潟市)



太田野史さん

「けんかの野史」という異名をとった頃、体が倍もある高等科の生徒に組み伏せられた。力では敵いつこない結果だったが、すきをみて、奴の太腿のあたりにガブッと噛みついたら、ギヤーと叫んで、奴は引つ繰り返った。こつという私が、相撲や柔道の虜(うな)になったのは、自然の成り行き。それにしても、近頃の柔道は、組み手争いで、時間ばかり経つ。これに反則点が付くのはよしとして、もつと改善策はないか。たとえば、試合時間を前後二分して、相互に得意の組み手を取ってから始める——とか。

かなり昔から、体重制になったのは合理的で良いのだが、柔よく剛を制すの妙技を見たいと思うのは私だけだろうか。柔道の神様と言われた三船久蔵について、私の親しい友人の証言がある。「稽古をつけて貰えるというので、組み合ったところ、老いた三船は俺よりなんと一回り小さかった。しかし、どんなに歯軋りして掛つてみても、全く歯が立たなかった」と。

編集室だより

生きているといろんなことが起こります。一日の中でもあんなこと、こんなこと、ほんといろいろとありますね！ そんな日常に転がる喜怒哀楽を、編集室よりお届けします。

ご来社ありがとうございます

今年の年賀状で「今年は喜怒哀楽書房へ行きたい」とお知らせくださっていた寺尾亜真李様。9月、句集の打ち合わせのためご来社くださいました。



書棚にある本をご覧いただいたり、句集に使用する紙や布を見比べたり——実際に見て・触って・確かめていただけて良かったです。その後、製本工場を見学いただきました。寺尾様、ご来社ありがとうございました！

新潟東高校の生徒さんが、私たち取材②

このたび新潟県立新潟東高校の生徒さんが、授業の一環で私たち取材し、魅力を発信する動画をつくってくれることに！

7月末には仕事の様子や内容を熱心に取材。スタッフの松野が中心となり、本づくりの楽しさや当社が大切にしていること等をお伝えしました。



8月末、カメラを持った生徒さんが来社。インタビューを受けました。「どこの会社の取材をする

かは、希望制ではない」ということでしたが、生徒の皆さんには興味をもって丁寧に取材をしていただきました。私たちも嬉しかったです。ありがとうございました。



写真はインタビューの様子。動画の完成は来年3月とのこと、とっても楽しみです。完成後には公開の予定！ また、お知らせいたします。

カルチャースクールでのアルバム作り、ついに完成！

多くの方に本づくりを楽しんでいただきたいという想いから開講したこのたびのカルチャースクール。9月3日に第5回「製本」の工程を終え、素敵な思い出アルバムが出



来上がりました！ 次は10月から開講予定です。

写真は、製本工場にて。お客様が作りやすいように考えたキットを使って、試作しているところです。

天皇皇后両陛下が「にいがた文化の記憶館」に…

9月16日・17日両陛下が新潟にいらっしゃいました。「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」の開会式に出席され、「にいがた文化の記憶館」等を訪問されたとのこと。当館は、弊社に連載をいただいていますので、読者のかたにとってはおなじみですね。両陛下がご覧になったのは今回の企画展「病とたたかう—近代医学と新潟県人」。前号および今号の内容がこれにあたります。実は、両陛下へ説明されたのは、いつも連載をしてくださっている伊豆名さん！ ぜひ同じものを見たいという方、会期は12月1日までです。詳しくは本誌13頁をご覧ください。

「俳句αあるふぁ」に弊社の広告を掲載

2019年秋号に、広告を掲載しました。ラフは松野が考案、デザインは吉田が担当しています。フレッシュな広告、ぜひ探してみてくださいね。

16周年感謝プレゼント企画

- ① オリジナルコーヒー 10個入り 3名様に
- ② 短冊1600枚 3名様に
- ③ 自費出版10%オフチケット 10名様に

返信アンケートから抽選で、上記を16名の方にプレゼントします。

※返信アンケートをお送りいただくだけで、応募いただけます。

※応募締切はアンケートと同じ、11月15日（必着）です。

※プレゼントの種類はお選びいただけませんが、何かコメント（プレゼントの種類の希望など）いただけると嬉しいです。



国民文化祭・にいがた2019
企画展示「病とたたかうー近代医学と新潟県人」2

伊豆名 皓美



▲池田謙斎



▲池田謙斎拝領
明治天皇の御衣



▲入澤達吉

前号に引き続き、国民文化祭の事業の一環として弊館で開催中の企画展示「病とたたかうー近代医学と新潟県人」で取り上げている新潟の医学者を紹介します。今回は、長岡市中之島西野の名主・入澤一族の三人の医師です。入澤家は、幕末から明治、大正にかけて、多くの医師を輩出した一族です。中でも傑出した人物が、入澤恭平とその弟・池田謙斎（幼名入澤圭助）、恭平の長男入澤達吉です。

入澤恭平（1831～1874）は、縁戚の蘭方医竹山祐卜（燕市）、森田千庵（加茂市）の影響で医学を志し、長崎伝習所でオランダ人医師ポンペに学びました。帰郷後は、越後初の長崎帰りの西洋医として、開業の傍ら越後最初の蘭方医学塾を開いて西洋医学を教え、「北越における西洋医学の祖」と呼ばれました。

恭平の弟・池田謙斎（旧姓入澤・1841～1918）は外国排斥の攘夷思想でした。しかし、江戸で剣術修行中「敵（外国）を知るため」にオランダ語を学び、蘭学者の緒方洪庵に弟子入りしました。長崎伝習所で学びたかった謙斎は、洪庵の死後、緒

方家の養子を経て、さらに池田玄仲の養子となり、幕府の派遣で長崎へ留学、オランダ人医師ボードウインのもとで学びました。その後、江戸で開業し、上野の彰義隊の戦いでは負傷者の治療に際し、イギリス人医師から外科手術を学びました。明治維新後、ドイツのベルリン大学に留学して医学博士の学位を得、帰国後、宮内省御用掛（天皇の侍医）、陸軍軍医監、東京大学医学部総理（文系総理と並ぶ初代学長）を務めました。日本に博士制度が導入されると、最初の医学博士の称号が贈られました。

入澤達吉（1865～1938）は、父・恭平の急死後、叔父の池田謙斎を頼って上京、東京帝国大学医学部予科に合格し、医学者の道を進みました。達吉の述懐によれば、当時、医学部には越後出身者が多く、60～70人いたといいます。そこから「北越医会（後に北越医学会）」という同窓会が結成されたほどでした。卒業後はドイツ人医師ベルツの助手となり、のちドイツに留学、ベルリン大学で内科学と病理学を専門に学びました。帰国後、東京帝国大学医科大学教授、同附属病院長などを歴任。各種の研究とともに多くの内科医を育成しました。さらに日本内科学結成に尽力、大正天皇の侍医頭を務めました。「医者」という表現を嫌い、弟子たちに「医師」として人間的にも社会の模範となることを説きました。博識で文才にも恵まれ、「雲莊」と号し随筆も残しました。見附市名誉市民第1号です。

企画展示では、前回と今回で紹介した医学者を含め、11人紹介しています。本展を通じて、医学者たちの研究と努力が、日本の医療体制の充実を進めたことを知っていただければ幸いです。

● 展覧会情報

天皇陛下御即位記念
第34回 国民文化祭・にいがた2019
第19回 全国障害者芸術・文化祭にいがた大会
にいがた文化の記憶館 企画展示
「病とたたかうー近代医学と新潟県人」
会 期：9月10日（火）から12月1日（日）
休館日：月曜日（ただし9/16、9/23、10/14、11/4は開館）
9/17（火）、9/24（火）、10/15（火）、11/5（火）

● 関連イベント

月いちレクチャー特別編
「長岡藩出身・明治の医学教育者 長谷川泰」（先着40名）
「医の博物館」の佐藤利英先生から、博物館資料を基に、近代医学の誕生と発展、そして東京湯島に済生学舎を設立し多くの医師を育てた長谷川泰について紹介して頂きます。
講師：佐藤利英氏（日本歯科大学新潟生命歯学部准教授・医の博物館副館長）
日時：10月26日（土）午後2時～3時
会場：にいがた文化の記憶館 展示室内
事前のお申し込みが必要です。詳しくはにいがた文化の記憶館（☎025-250-7171）までお問い合わせください。

“ありがとう”俳句人生に乾杯!

5

4年間にわたり本誌に「食楽句楽」のコーナーで縦横無尽にペンを走らせていただいた岩田桂さま。

俳句によって人生をより豊かで充実したものとされてきた、その俳句人生の一端を6回にわたり雄弁に語っていただきます。

私の「3かく」の句づくり現場です

岩田 桂

君は実際、どのような句づくりの日々を送っているのかい。それを教えてくれよ、頼むから……と知人から要望を受けたりいたします。ならばと3かく(汗かく、恥かく、文字かく)の私の句づくり現場を公開することにいたします。

二〇数年かけて、約二万句を「3かく」してきた私の実務経験です。その具体的な句づくりの現場や喜怒哀楽をメッセージいたします。笑い飛ばしてください。

1、朝日俳壇へ毎週、五、六句ずつハガキで投句することが全ての基本です。年間約三〇〇句の投句について、期限の締め切りに挑むことが、句作りを続ける動機と支えです。これが俳句を長年楽しんでこられた俳句人生の現実です。

さらに我が俳句会の「パッ句会」への月次投句も動機となります。

自分で勝手に決めた納期があり、逃げたり、さぼったりできないのです(笑い)。

2、投句の作品は、普段、何気なくパソコンにメモをしておいた素案を推敲しながら、まとめ上げてゆくのが日課です。とにかく数を蓄えながら、手元に蓄えていきます。

3、推敲のやり方は、パソコンに打ち込んだ駄句を、他人の選者の立場で読み、あれこれと五七五の表現を描き直します。私の句を私の別人が添削するのです(本当)。

4、句づくりは、時には先人の俳句などを参考にしながら、目に見えないヒントやひらめきをもらいながら推敲をします。ただしマネはしません。

5、推敲した素案は一日ほど放置します。時間の経過による作品の熟成の変化を図ります。

しばらく放置しても駄目な句は駄句です。あっさり破り捨てます。

そして手許に残るのは、わずか一割ほどの添削句だけです。

6、時間を置いても嫌気のない俳句ができれば、それをハガキに書いて朝日俳壇、あるいはパッ句誌への投句作品とします。

7、俳句のひらめきは、何時、何処で、何をしていた起こるか分からないのが現実です。だからいつもポケットにメモ帖や句帳を持参することが必要です。

8、メモの内容は、「見つけた季語や事柄を書く」「見つけた時の様子を書く」「その時の自分の気持ちを書く」をそれぞれ三行に書き込みます。そしてこの3行のメモを回顧しながら五・七・五の定型型俳句を描きだします。一日一句が目標です。

9、俳句はとにかく「多読・多捨」を胸に刻み、ペン先にその発想を刻み込んで日々を謳歌するのが基本です。まさに人生そのものの記録です。

以上が俳句づくりの現場のレポートです。さてさて、諸兄殿はどのような俳句づくりの人生を目指しますか。とにかく諦めずに挑戦してください。

私の句作りの現場風景は以上です。それをまとめると以下のメッセージとなります。

「俳句づくりにとって、最も大切なことは、ただ、ひたすら、「文字のカメラマン」として詠む習慣をつけること。

駄句、大歓迎! 迷句、大歓迎!

さすれば ある日、突然の天声人語がふりかかると、嬉しい句が生まれる。3年も続ければ、誰でも俳人になれます。

才能なんかは不要です。他人からバカにされようが、全く気にしない。

自費出版の本でも出版すれば、もう、俳句人生は最高となる。





柳本々々さんの川柳日記

本誌「喜怒哀楽」の「詠み人のリレーエッセイ」に執筆くださった(2018年8、10、12月号) 詩人・川柳作家の柳本々々さんの著書『バームクーヘンでわたしは眠った もととの川柳日記』(春陽堂書店)が出版されました。見た瞬間、装丁の可愛さに心ときめき、開けば独自の々々ワールド全開の日記とその内容にマッチした挿絵が、全ページにわたって何とも魅力的に描かれています。どのページを開いても、一瞬で引き込まれてしまう本書、ぜひ書店・ネットよりお買い求めください。



▲装丁は駒井和彬さん、挿絵は安福望さんによる

伊丹三樹彦さまご逝去

去る9月21日、本誌「フォト一句」のコーナーでもお馴染みの伊丹三樹彦さんが、肺炎のため99歳で亡くなられました。兵庫・尼崎の地より「喜怒哀楽」を応援くださっており、2年前の9月にお目にかかった際には「人は死んだら灰になるだけや。この人はどんなことを考え生きていたかを形で残さんと。死んでからやなくて生きているうちに。人生は愛と死と旅」と言い切った、明るく楽しく愛らしい伊丹さん。最後にいただいたハガキの消印は6月。旺盛な創作意欲で詠み切り、残し切った生涯でした。今ごろ「合性の女は一人伊丹公子」と、再会しているでしょうか。ご冥福を深くお祈りいたします。



▲屈託のない破顔一笑の生前の伊丹三樹彦さん(2017年9月)

第10回良寛・国上寺全国俳句大会開催



▲大賞を受賞した愛知県の高藤欣也さんと国上寺 山田光哲住職

台風が近づく秋分の日(9月23日)、良寛さまゆかりの国上寺(新潟県燕市)において、第10回良寛・国上寺全国俳句大会が開催されました。各自、お寺や国上山周辺を吟行後、選者の「銀化」中原道夫主宰による事前応募句の大賞・入選・佳作の選評が行われました。

大賞 紙風船転がる息の重さかな 古藤 欣也
入選 野遊びの師は良寛を置いて無し 井上 静夫

手毬つくそれて根方にをさまりぬ 高野ほづ子
初物を剥けば先客栗の虫 島貫アキ子
十薬や都会に染まることもなし 大日方英樹

続いて当日の吟行句(囁目)の選評が行われました。

特選 芒野や夫婦にもある古戦場 島貫アキ子
野分なか鞠の吸ひつく掌 恩田 富太

年々レベルも上がっているこの大会、来年もご投稿いただき、秋真っ盛りの雄大な越後平野に足をお運びください。

野菜のポストカード



1セット12枚入り1000円(送料込み)。今回は茄子を同封しました。美味しそうな野菜で、季節のメッセージを送りませんか。ご注文は同封の振込用紙をご利用ください。



スタッフの一言

Q. 東京オリンピックまであと1年! 楽しみにしていることは何ですか?

木戸 敦子



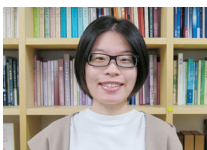
やはり陸上! 小中高と陸上部でもあり「on your mark.」というあの冷静なスタートの声を聞くと心臓バクバク。午年の血が騒ぎます。トラック競技もフィールド競技も楽しみ!!

古川 久美子



先日、世界水泳を見ていたので、なんとなく水泳に興味があるような気がする。前の時は、馬術を見ていた。馬場馬術(言いたかっただけ)。

菅 真理子



開会式の演出。そして柔道。初めて正式種目になった空手も見たい。マラソンや水泳、陸上のリレーも気になります、おそらくダイジェストで見ただけですが忙しくなりそう(笑)

松野 沙依



各国の開会式用ユニフォームがどんなものになるのか、とても楽しみです。デザインにお国柄が出ていて見ていて面白い!

山田 民子



パリンピックの開会式と車いすバスケのチケット申込みしました。喜怒哀楽がお手元に届く頃には抽選結果は出ているはず。私は観戦できるか、いつかご報告いたします。

木伏 美恵子



開会式、陸上のチケットを申し込みましたがはずれました。陸上の中でもリレー。昔からリレーは応援に力が入ります。町内リレーでさえも熱くなる。

上村 眞智子



中学生の時、補欠のピンチサーバーだったけど唯一経験したスポーツだから、なんといっても女子バレー! ワールドカップは5位まで行ったので、あと少し! メダルは夢じゃない!!

石山 由希子



開会式と閉会式のアトラクションが楽しみです。競技の方は詳しくないので、お祭り同様にみんなの盛り上がりには便乗します! たくさんのドラマが見られるんだろうなあ。

吉田 瞳



新しく加わったスケートボードやサーフィンが観たいです。息子世代の子が活躍してるので親心で応援したいです。でも息子が卓球部なので今からテレビ予約されています。

佐々木 祥子



個人的にはスポーツクライミングに興味がありますね。どの競技も選手やまわりとの一体感、緊張感をテレビ越しに楽しみたいと思います。

歌舞伎
を詠む

地芝居

小泉芝雲^{しうん}

その土地の人々による素人芝居である「地芝居」。もし、近所の顔見知りの人が演じていたとしたら、にわかにヒーローになったり、やんややんやと盛り上がり上ったりと、そのライブ感たるや、実に楽しいだろうな」と想像しました。

秋に入り歌舞伎興行は、九月「秀山祭」(初代中村吉右衛門を偲び平成十八年より毎年九月実施、秀山忌九月五日)、十月名古屋御園座顔見世、十一月歌舞伎座顔見世と盛り上って行きます。一方世の中は秋の豊作に感謝し、各地で「地芝居」が演じられます。この「地芝居」は秋の季語となっており、関連季語である地狂言・村芝居・農村歌舞伎と共に俳句に詠まれています。

地芝居とは、鎮守社の祭礼や雨乞い、盆の先祖供養などの宗教的行事の機会にごく短い期間(一日〜三日)を限って催され、その土地の青年団の若者等によって演じられたもので、村の神社の境内にその為の舞台が常設されている所が多かったのです。

此の地芝居を歴史的に見ますと、江戸時代の享保の頃(一七一六〜一七三五)に始まったものですが、幕府は弾圧する方針でしばしば禁止令をだしました。中でも寛政の改革(一七八七)、天保の改革(一八四二)に際しての弾圧は厳しかった様です。

しかし、これらの弾圧にも屈せず「子供手踊り」(「狂言踊り」(「かくれ踊り」等の称に隠れて地芝居は続けられたのです。文化・文政期(一八〇四〜一八二九)以降に地芝居は広く地方の農村に浸透し、隆盛を極めました。幕末から明治初期に掛けてが最も盛んであり、第二次世界大戦後は農村にも娯楽多様化の波が押し寄せ、急速に衰退、他の民族芸能と同様にかろうじて山間の村に残り、保存会によって守られてきたのです。

現在も伝承されている地芝居の代表的なものとして①山形県酒田市黒森歌舞伎②福島県南会津郡檜枝岐歌舞伎③埼玉県小鹿野歌舞伎④千葉県大栄町伊能歌舞伎等があります。

又、最近では村興しの一環として各地で地芝居が復活され二百以上の地芝居が上演されているようです。特に子供歌舞

伎(新富座なども歌舞伎等)は盛んであり、更には大学(慶応、学習院大等)の学園祭における歌舞伎や市民歌舞伎(調布市等)もあり、現代の地芝居となっているようです。

地芝居の演目として伝承し上演されている狂言は大歌舞伎で演じられる演目と共通していますが、特に上演回数が多いのは素人でも覚えやすい型物と言われている時代狂言で『絵本太功記(太十)』、『仮名手本忠臣蔵・五段目・六段目・七段目』、『義経千本桜』、『源平布引滝』、『熊谷陣屋』、『盛綱陣屋』、『奥州安達原』等であり、又皆さんに人気のある世話狂言では『白浪五人男・稲瀬川勢揃いの場』、『源氏店』、『三人吉三』等です。地芝居の特色としては、素人が演じるため思わぬことが起こることがあり、観劇される皆様も「はらはらどきどき」しながら芝居を楽しんでおられ、俳人もその景を俳句に詠んでいるのです。

段取りの狂ひ地芝居面白し

高倉 和子

地芝居のお軽に用や楽屋口

富安 風生

地芝居の猫背をかくせぬお軽かな

渥美 奈雄

筋書きになき時雨くる村芝居

大隅 徳保

地芝居の大向ふかな百舌鳥の声

小泉 芝雲

最後に「秀山祭」に因み秀山という俳号を持ち虚子の門下生として雑誌「ホトトギス」の同人でもあった初代中村吉右衛門の俳句を掲載しておきます。

雪の日や雪のせりふを口ずさむ

秀山

一茶忌の句会すませて楽屋入

同

今日はこれ切り

※前回のこのコーナーで誤りがありました。訂正しお詫び申し上げます。

誤 下段10行目 二代目猿之助 正 三代目猿之助

2019.10-11. vol.106 (2019年10月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション

喜喜怒哀楽書房 〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

0120-819-395 Facebookもチェック

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミュージズ・コーポレーション

編集
後記

おかげさまで10月10日に創立16周年を迎え、今号では新潟出身で10月10日に21周年を迎えられた「銀化」の中原道夫主宰に、本を作る意義をお聞きました。当社の始まりは亡き母のことをまとめた「忘れな草」という一冊の本。あの時、何がそうさせたのかはわかりませんが、無理を押しても作ってよかったと本当に思っています。一人でも多くの方にその思いを実感していただきたい。たかが本、されど本。これからも「本」という、皆さまの大切な「よすが」となるものを作るお手伝いを心を込めて続けてまいります。(木戸敦子)